

医学部の歩み

山形大学医学部の誕生

山形大学への医学部の創設については、大学創設間もない頃からその必要性が議論されていましたが、実現をみることはありませんでした。しかし、都市化の進展にともなう人口の増加によって医師不足が意識されはじめると、1966年(昭和41)には山形県が医師確保対策協議会を、1969(昭和44)年には山形大学が医学部設置期成同盟会を設置します。1970年(昭和45)には安孫子^{あびこ}藤吉^{とうきち}山形県知事から本学学長に医学部設置を配慮する公式依頼文が発出され、翌年に設置された医学部問題調査検討委員会の検討を経て、山形大学評議会が医学部の山形地区への設置を決定しました。結果として、1973年(昭和48)に国立学校設置法の一部を改正する法律により、山形大学に医学部が設置されます。1976年(昭和51)には医学部附属病院が設置され、15診療科・病床数320床で開院しました。

医学部創設にあたって、東北大学名誉教授の中村^{なかむら}隆^{たかし}が学部長、新潟大学から一柳^{いちやなぎ}邦男^{くにお}が病院長として招聘されました。中村は医師には医学的素養だけで



■ 山形大学医学部校舎（『山形大学医学部創設十周年記念誌』）

はなく、豊かな人間性と高度の倫理的判断力が必要と考え、自ら週3時間、医学哲学を学生に講義するとともに、医学部構内に「医学の森」と「ヒポクラテス・モニュメント」を作りました。「医学の森」には、医学研究に献じられる解剖体の納骨慰霊塔「三世代」像が、「死が生の手助けをした尊い御霊がここに眠る」との中村の言葉を記したレリーフとともに配されています。

地域とのエピソード

医学部の用地については、1971年(昭和46)に安孫子^{あなざわ}知事^{ただお}から金澤忠雄山形市長に候補地選定を依頼しました。しかし、市の選定した地区の土地買収が難航したため、予定していた1973年の設置が危ぶま



■ 「医学の森」にある「三世代」像

れる状況になります。そのような中、飯田地区の地権者から医学部誘致のためであれば田圃を提供しても良いとの申し入れがあり、タイムリミットとされた1972年(昭和47)の2月中に120名を超える地権者の同意書の取りまとめが電撃的に完了しました。

また、約2400平米の敷地に設けられた「医学の森」の設立に際しては、1975年(昭和50)10月に地域振興整備公団米沢開発所長より、八幡原工業団地の自然樹林から立木2000本が贈呈され、事務部職員の総出で採取・運搬・移植が行われました。献体については、1973年に山形大学しらゆき会が結成され、東根市^{はらだ}の原田^{はらだ}さんが献体者第一号となりました。

山形アーカイブ実行委員会